

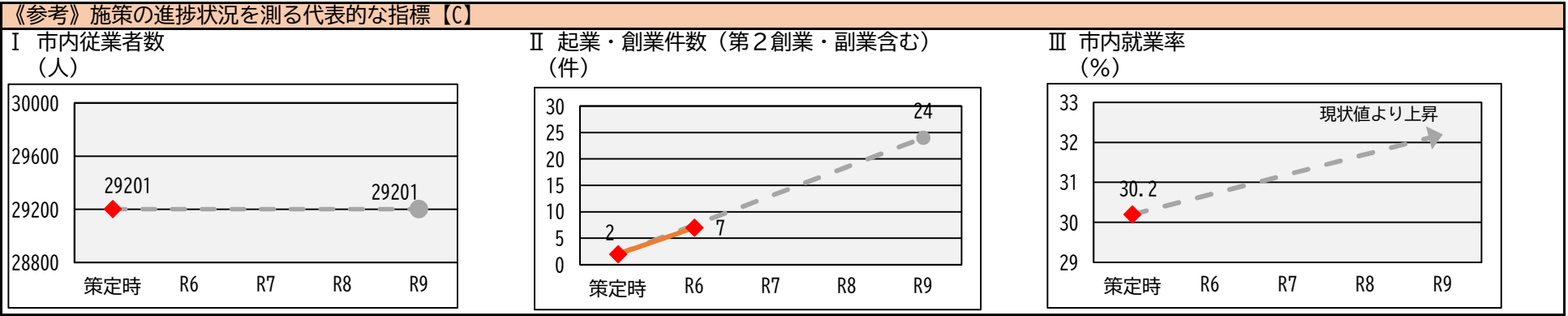
施策名	9 産業・雇用就労（1）		
R9年度末にめざす状態（施策目標）【P】	地域の経済循環が高まり、多様な働き方が広がる職住近接のまちが実現している	進捗度	C

総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等

(1)市内経済の活性化と循環の促進		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
変革と挑戦に取り組む市内事業者に対する伴走支援により経営課題を深く把握し、課題解決に向けた支援を行った。支援後には市が事業者をIKOMASTARとして認定し、市民への紹介に加えて就業先を探す市内外の方や取引先へのPRにも繋げ、市内経済の活性化に寄与した。また、飲食店等の新規出店支援を通じて、地域の経済循環を高めた。さらに、市の創業セミナー（IKOMA LOCAL BUSINESS HUB）の開催を通じて、創業者や既存事業者など多様な主体の交流を生み出すとともに、多様な働き方の促進による職住近接のまちづくりに寄与した。	No.1 ものづくり操業環境支援事業	製造業10社の課題解決に向けた伴走支援を行い、IKOMASTARとして認定しPR等を行った。
	No.5 企業誘致促進事業	商業エリア補助金活用による新規出店が5件あり、市内の賑わいの創出と産業の振興に寄与した。
	No.8 起業家・第2創業創出・育成支援事業	創業者や既存事業者など、2年連続で100名を超える参加者があり、各成長ステージに応じた支援により5名の創業につながった。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
市内事業者に対する伴走支援の結果、人材関連の課題を抱える事業者が多いことから、操業環境確保のためには雇用関連の支援と一体的に行う必要がある。また、企業誘致・開業支援の取組においては、変化の激しい社会情勢や市民ニーズに対応し、事業メニューを随時見直す必要がある。さらに、これまで創業セミナー等を通じて多くの創出者を輩出してきたが、セミナー終了後の関係構築やアフターフォローが必要である。	令和6年度補正予算において、人材確保等総合支援事業に係る予算を計上し、市内中小事業者等の人材確保及び生産性向上に向けた取組を総合的に支援していく。また、企業誘致・開業支援の取組においては、補助金事業の見直しや補助金交付の要件を緩和する等、ニーズに応じた改善を行う。さらに、これまでの創業セミナー卒業生に対し、個別のヒアリング等を通じて各成長ステージに応じたアフターフォローに取り組む。	

(2)市内事業者の雇用・定着支援と多様な働き方の促進		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
多様な働き方に関する啓発セミナーや事業者及び市民の交流会の開催、多様な働き方に取り組む事業者の紹介、また、労働局と連携した合同企業説明会や助成金説明会等の実施を通じて、市内事業者の雇用確保と人材定着を支援し、市内就業者の増加及び市内事業者の事業継続と発展に寄与した。	No.12 多様な雇用・就労環境拡大促進事業	目標値を上回るセミナーや交流会を開催し、市民と事業者の交流機会を提供できた。また、多様な働き方に取り組む事業者の紹介を行った。
	No.13 市内事業者人材確保・育成事業	労働局と連携し、目標どおり面接会や説明会を実施することができた。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
施策目標の実現に向けては、当該取組を継続して実施することが重要であり、市民と市内事業者のマッチングの機会を安定的に提供し続けることが必要である。また、人材不足に苦慮している一方で、多様な働き方の導入が困難な業種がある。	引き続き当該事業を継続的に実施するとともに、令和7年度においては人材確保等総合支援事業において、多様な働き方の導入が困難な業種のニーズがあれば、伴走支援を通じて業務フローの見直しや業務の切り出しを行い、多様な働き方の推進に取り組む。	

(3)身近な観光価値が地域経済につながる観光振興		
施策目標の実現に向けて得られた成果【C】	施策目標の実現に効果のあった取組【D】	取組による効果の内容とその根拠【D】
高山地域の伝統産業や自然環境などの地域資源を活用し、市内外の多様な主体が協働して催事を実施することで、地域の魅力を広く発信できた。特に、ワークショップを通じた共創プロセスにより、地域内の連携強化や新たな交流が生まれ、次年度以降の継続的な取組の芽も育まれるなど、地域活性化に向けた好循環のきっかけとなった。また、茶釜を活用した訪日外国人向け観光商品を試行し、体験型観光と地域資源の魅力発信で誘客と地域振興に資する事業が実施できた。宿泊施設検討事業では施設立地に関するニーズ等を整理し、市内のエリア単位での可能性を評価したことで観光客受入環境整備のための実態把握と判断材料を得ることができた。	No.14 市民による観光魅力創出事業	目標を上回る事業者に参加していただき、市内外の多様な主体が協働して催事を実施することで、地域の魅力を広く発信できた。
	No.17 外国人向け観光誘客事業	訪日外国人向けの観光商品を試行し、体験型観光と地域資源の魅力発信をするためのツールを作成した。
	No.18 宿泊施設検討事業	宿泊施設立地可能性調査・誘致活動により、生駒駅周辺や市内南部など、エリアごとの立地評価・整理を行い、今後の検討材料を得た。
施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】	施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】	
市民の活動や市内事業者の取組等を観光資源として活用する際には、事業を継続するため、関係市民等の理解を促進し、共感を広げる必要がある。また、伝統工芸など観光資源となり得る事業者の取組については、後継者問題など担い手不足の課題がある。宿泊施設検討事業については既存宿泊施設との連携強化や観光と一体となったサービス提供体制の構築や、将来的に宿泊事業を担う人材の発掘・育成にも取り組む必要がある。	市民の活動等を観光資源として活用する際には地元住民のニーズを踏まえて、イベントの内容や実施時期を検討する。伝統工芸等の後継者問題については、収益性や事業価値を高めるブランディング事業等の後継者確保に繋がる支援事業を継続する。宿泊施設検討事業については、宿泊施設の新設を見据えた環境整備に加え、既存施設への伴走支援や観光と連動した運営力の強化、人材育成など実現性の高い分野に注力することで、持続可能な宿泊体制の構築に取り組む。	



《参考》めざす状態に対する市民実感度	
「そう思う」＋「どちらかというと思う」と回答した人の割合	
【R6.8月】	(参考) 前回値
19.1%	—